

# ハタロウ

第97号

## 生涯学習情報

◎連絡先◎  
生涯学習課  
☎(20)1559



### 郷土の先覚者 千葉三郎 に学ぶ

茂原市立美術館・郷土資料館で1月25日⑤から3月末まで千葉三郎のテーマ展が開催されました。茂原の歴史を調べると、あちこちでこの人の名前が出てきますが、どんな人物だったのでしょうか。

#### ▼千葉三郎の生涯

千葉三郎は明治27年に鶴枝村上永吉で眼科病院を営む千葉天夢の三男として生まれました。東京帝国大学仏法科卒業後、アメリカに渡りプリンストン大学に留学して石油業を学び、帰国後は当時の鐘紡社長・武藤山治の片腕として大日本実業組合連合会理事に就任しました。

大正14年、旧千葉6区から衆議院議員補欠選挙に立候補し初当選。以降、戦前・戦後と合わせて12回当選しました。その間、武藤が社長を務めた「南米拓殖会社」に取締役と

して入社、ブラジル・アマゾン開拓事業に従事し、早山石油（後の昭和シェル石油）の専務も務めました。また、日本油化工業を設立して人造石油の開発に着手するなど石油・エネルギー関連事業に従事しました。

戦後は宮城県知事、衆議院議員再選後は民主党幹事長、第一次鳩山一郎内閣の労働大臣、東京農業大学学長を歴任しました。

政界引退後はブラジルに渡り、燃料アルコールの原料となる「マンジョカ」の栽培地を作る計画を行っていましたが、

メキシコシティで倒れ、昭和54年85歳の生涯を終えました。こうした彼の実業家、政治家としての活躍ぶりはもちろんですが、根底に流れるバイオリテイにはとても驚かされます。

#### ▼テーマ展を終えて

郷土資料館で開催されたテーマ展では、千葉三郎の肖像画や著書、開拓時代の写真や後年ブラジルのパラ州知事から贈られた感謝状、衆議院議員当選証書の数々、交流のあった方々からの色紙や掛け軸等、彼の功績をたどる多くのものが展示されました。



▲展示された旭日大綬章

このテーマ展を開催する直前にうれしい出来事がありました。ご長男の千葉健司氏とお孫さんの祐三氏から千葉三郎に関する資料18品目125

#### 「マンジョカの話」

キャッサバ芋のことをブラジルではマンジョカと呼びます。世界の熱帯地方で栽培されており、芋の部分は食用に、根茎から製造したデンプンはタピオカと呼ばれ、デザートや飲料のトッピングの材料や飲料のトッピングになります。

食用以外にも、葉を発酵させて飼料にしたり、アルコール発酵させるとバイオ燃料に生まれ変わります。

条件が悪くても生育が可能で、食用や工業の原料になるので、食糧問題や地球環境問題の解決に期待される植物です。

千葉三郎の晩年は、昭和の



石油ショックの時期と重なりますが、ブラジル開拓と石油会社の勤務経験があった彼だからこそ、マンジョカの特性がバイオエネルギーになると注目していたはずですが、

三郎は志半ばで亡くなってしまうのですが、その先見の明は確かなものだったのです。

点の寄贈があったのです。その一部はテーマ展で初のお披露目となり、その中でも昭和40年に授与された日本国勲一等瑞宝章と昭和50年に授与された旭日大綬章の勲章は、漆塗りの木箱に入った立派なもので、思わずため息が出てしまうほど見事でした。

開催当初より市内外から8千人を超える来館者がありました。

茂原公園が桜まつりを迎える

るころにはより多くの人が訪れる良い機会だったのですが、新型コロナウイルス感染症拡大予防に鑑み、開催途中で臨時休館とさせていただきます。

また、期間中に千葉三郎をテーマとした歴史セミナーを開催する予定でしたが、こちらは延期となりました。

#### ▼鶴枝で佇んでいる人

皆さんは鶴枝公民館に行つたことがありますか？レイク